2017年2月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第481号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

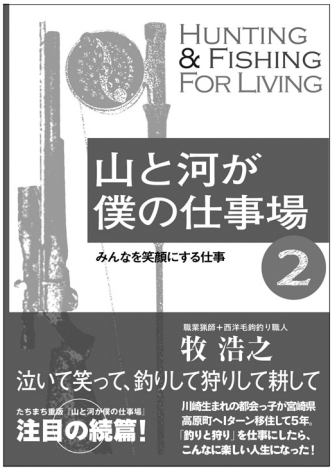
発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

神奈川県から宮崎県へのＩターン移住

釣りと狩猟が職業に。大きく変化していく生活をありのままに書き下ろし

文・職業猟師＋西洋毛鉤釣り職人　牧 浩之

『山と河が僕の仕事場｜頼りない職業猟師＋西洋毛鉤釣り職人ができるまでとこれから』2016年12月　第２刷



『山と河が僕の仕事場２｜みんなを笑顔にする仕事』（仮題）
職業猟師＋西洋毛鉤釣り職人　牧 浩之 著
フライの雑誌社刊
ISBN　978-4-939003-69-1
A5判　本体価格（予価）1600円+税
2017年2月 発行予定

2015年12月にフライの雑誌社から『山と河が僕の仕事場』を出版しました。

神奈川県から宮崎県へのＩターン移住をきっかけに、大きく変化していく自分の生活をありのままに書き下ろした一冊です。

おかげさまで話題にしていただき、このたび重版になりました。

田舎暮らしへの憧れ

僕が生まれ育ったのは、神奈川県の川崎市です。自宅は川崎駅から徒歩五分にあり、自然とは無縁の環境でした。唯一の自然は、自宅から自転車で15分ほどの多摩川でした。

お世辞にもきれいとはいえない川でしたが、フナやハゼ、ザリガニなどが採れる、僕にとってはかけがえのない遊び場でした。

幼いころから週末はたいてい、祖父や父と釣りや登山、虫捕りなどへ出かけていました。社会人になって行動範囲が広がると、片道数時間をかけて山梨や長野、福島などへ遠出して、渓流釣りを楽しむようになりました。

川沿いで生活する人々を見ていると、いつでも釣りができる環境がすごく羨ましく思い、田舎暮らしへの憧れが強まりました。

結婚を機に高原町へＩターン移住

宮崎県への移住のきっかけとなったのは、結婚の挨拶をしに妻（当時は彼女）の実家のある高原町（たかはるちょう）へお邪魔した時でした。周囲を山に囲まれた高原町には、広がる田畑を縫うようにいくつもの川が流れていました。

妻の従兄弟の友人に近くの釣り場を案内してもらいました。海、川、湖、どこも素晴らしく、僕はすっかり高原町に魅了されました。

「ここに住んだらいつでも釣りに行ける。」

妻の実家周辺には、僕が子どもの頃から夢に描いていた環境が広がっていました。この機会を逃せば、きっと田舎暮らしは実現しない。そう思った僕は、せっかく東京に出て働いていた妻を必死に説得して、結婚とほぼ同時に高原町へＩターン移住したのです。

高原町での暮らしは、思った以上に楽しいものでした。自宅から車で５分ほどの川で毎朝ニジマスやヤマメを釣り歩き、午後から仕事するという生活スタイル。

フライフィッシングという釣りに使う毛鉤を製作して販売するのが僕の仕事です。巻いた毛鉤をすぐに釣り場で試せる環境は、理想的でした。

シカの毛との出会い

僕の生活が大きく変化したのは、シカの毛との出会いでした。シカの毛は毛鉤の素材としてよく使われますが、その全てが海外からの輸入物です。

近くの湖で釣りをしていた時に、たまたま落ちていた地元のキュウシュウシカの毛を拾った僕は驚きました。今まで知っていたシカの毛よりも、キュウシュウシカの毛は細くてしなやかで、毛鉤に使ったら最高でした。

「このシカの毛をもっとたくさん欲しい。」

そうして知り合ったのが、妻のお母さんの知り合いである猟師の大形さんでした。獲物の解体を手伝うようになり、やがて狩猟に誘われました。

「獲ることから始めれば、職人として作品にストーリーが生まれて面白い

シカの忍び猟。獲物の風下で身を隠す。森の中での真剣勝負。

地元のイベントで毛鉤製作のデモンストレーション。興味津々の子供たち。

お世話になっている狩猟の大師匠に、わな猟の獲物を見せる。

製作した毛鉤の出来ばえを川で試す。釣りも仕事のうち。

と思うよ。」

大形さんの言葉に心動かされ、僕は狩猟免許の取得を決めました。川崎育ちの僕にとって、今まで狩猟なんておとぎ話の世界だったのに。

残念ながら大形さんと狩猟に出ることはかないませんでした。僕が狩猟免許に合格したその日の晩、病で空へと旅立たれました。

カモやキジを撃つ生活

僕は今、地元の山と河でシカやイノシシをわな猟で狙い、大形さんの形見の猟銃を担いで、カモやキジを撃つ生活を送っています。

獲物の肉はありがたく我が家の食卓でいただきます。ご近所やお世話になっている方にふるまうこともしょっちゅうです。

獲物の毛や羽は、自分で試行錯誤して確立した方法で、なめしたり仮剥製に仕上げ、毛鉤の素材として販売します。普通は捨ててしまう獲物の羽や毛が、僕にとっては大切な収入源です。釣りが好きでＩターン移住したら、いつのまにか釣りと狩猟が職業になっていました。

自家消費用の野菜作りも

2016年6月からは地元猟友会の有害鳥獣対策班に入り、禁猟期も山を駆け回るようになりました。

ニュースなどで知っていた野生鳥獣による農林作物への被害は、実際に現場で接してみると想像以上にひどいものでした。

猟師としての技術を、地元の農林畜産家の方々のために役立てたい。被害に困っている方と情報交換しながら、協力して被害対策に取り組んでいます。

自宅には都心なら庭付きの一軒家が建つ大きさの菜園があります。自家消費用の野菜を育てるのも僕の役目です。

農家の方に教わり、毎月何かしらの野菜を収穫できています。それも無農薬。とても贅沢なことです。

獲物の肉や育てた野菜をお世話になっている方に差し上げると、僕が作っていない野菜や、牛肉、卵といった食材を逆にもらうこともよくあります。

物々交換ではないですが、気持ちのやりとりがそこにはあります。

地元の方とのつながりは最大の財産

僕はＩターン移住者ですが、少し特殊なケースだと思います。移住して生活スタイルが180度変化しました。

田舎暮らしはスローペースだとよく言われますが、一日が24時間では足りないほど、忙しい毎日を送っています。

釣りと狩猟を通じて次から次へと広がっていく地元の方とのつながりは、自分にとって最大の財産です。

人と人の間で生きていくから人間であるわけで、都会では忘れてしまった多くのことを地元の方の温もりが思い出させてくれます。

高原町での暮らしは日々進化しています。自分でも驚くほどに、新しい挑戦への連続です。

都会で育った僕だから余計に感じるのかもしれませんが、日本の地方には住民が気づいていないその土地ならではの魅力が、数多く存在していると思います。

ちょっと視点を変えるだけで、暮らしている地域の新しい横顔を発見することができるのではないでしょうか。

僕は今、『山と河が僕の仕事場２』を執筆しています。『１』を書いて以降の一年間でも、泣いたり笑ったり、本当に様々な刺激的なことがありました。

もうすぐ刊行予定です。

＊

（まきひろゆき　職業猟師＋毛鉤釣職人　宮崎県高原町在住）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

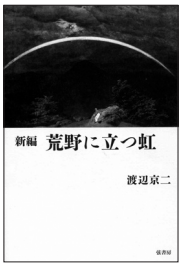
『あひる』●今村夏子著

父が働いていた頃の同僚から譲り受け、あひるを飼い始めた一家。父と母、資格取得のため勉強中の娘。弟がいるが、結婚して市内で暮らしている。物語は娘の視点で語られていく。あひるを目当てに学校帰りの子供たちが集まるようになり、やがて彼らの行動は次第にエスカレートしていく。あひるの様子もおかしくなっていくが……。

地方発の文芸ムック「たべるのがおそい」創刊号に掲載され、芥川賞候補となり、大いに注目を集めた表題作ほか「おばあちゃんの家」「森の兄妹」の書き下ろし２編を収録。この２編にはそれぞれ祖母と孫、ある老女と近所に住む幼い兄妹とその母などが登場する。一見ほのぼのとしたふれあいと思われる中に散りばめられた毒ややるせなさ、子供の残酷さや本当は認めたくない現実など、３編とも何気ない日常に潜む危うさが描かれており、各方面で絶賛される著者の新たな世界が広がっている。

◆ 1404円・四六判・140頁・**書肆侃侃房**・福岡・2016/11刊・ISBN9784863852419

『新編　荒野に立つ虹』●渡辺京二著

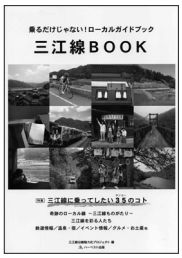


現代の諸問題はおよそ近代化のなせるわざであろう。『逝きし世の面影』(和辻哲郎賞)などで近代の意味を問い続けた著者は、同じく近代がもたらした水俣病を描いた名著『苦海浄土』の石牟礼道子の強力な支援者としても知られる。

本書は「いま何が問われているのか」に始まり、長崎大の学生への講演「ポストモダンの行方」で近代化のおさらいをし、「山河にかたどられた人間」で自身を振り返りつつ本題に入っていく。近代化、現代文化のもつ本質を、パステルナーク、ソルジェニーツィン、ローレンツ、イリイチといった思想家との出会いからえぐりだし、「彼らの仕事は私にとって荒野に立つ虹のごとくであった」と著者は述べ、とりわけイリイチには深い関心を寄せる。世界システム論のウォーラーステインやマルクス、ウェーバー、ハイエクほかにも触れる。意図したわけではないだろうが、博覧強記の著者の手にかかる本書は、近代、現代文明、現代思想について考えるうえでのテキストにもなるという側面を持つのは、読者にはありがたい。

◆ 2916円・四六判・440頁・**弦書房**・福岡・2016/12刊・ISBN9784863291416

『三江線ＢＯＯＫ　－乗るだけじゃない！ローカルガイドブック』●三江線沿線魅力化プロジェクト編

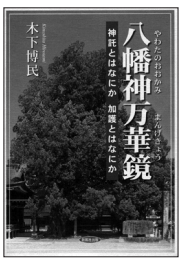


JR西日本によって廃止が打ち出されている三江線は、島根県の江津と広島県の三次を江の川に沿って結ぶ108.1キロのローカル線です。そんな三江線の沿線の魅力をもっと知ってほしいという地元の思いを凝縮したのが本書です。

沿線には江の川の雄大な自然や様々な泉質の温泉、伝統芸能として盛んに行われている神楽など、たくさんのみどころがあります。そこには決して派手さはありませんが、地域に根ざした風景や文化そしてひとに出会うことのできる場所が紹介されています。また旅の楽しみといえば食事。猪肉を使った山くじらラーメンや、ワニと呼ばれる鮫を使ったその名も「わにプリン」、あるいは鮎が一匹のった鮎だしうどんなどご当地グルメも充実しています。三江線が廃止になるのはさびしいことですが、それで当地の魅力がなくなってしまうわけではありません。本書を片手にぜひ現地も訪れたいものです。というわけで今度は江の川のほとりでお会いしましょう。

◆ 1296円・Ａ４判・72頁・**ハーベスト出版**・島根・2016/11刊・ISBN9784864562188

『八幡神万華鏡　－神託とはなにか加護とはなにか』●木下博民著

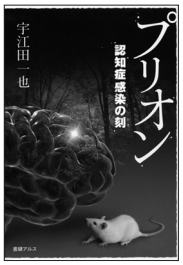


そもそも著者の八幡神への関心の原点は、著者が生まれた時に遡る。著者の父親が地元の八幡さまに何がしかを奉納して頂戴した我が子の名前に祖父がケチをつけ、その祖父の一声で現在の名前に落ち着いたのだという。「八幡さまの神託を蹴った罰当たり…当人のわたしは、それなりに、八幡さまに済まぬことをしてしまった、と生涯思いづづけてきました」

さて古事記や日本書紀には登場しない八幡神が、現在のように神社数にして日本一となるほど人気となったのはなぜなのか、本書は歴史的資料を丹念に辿りながら浮彫にしていくのだが、やはり最も興味深いのは、宇佐地方の土地神、祖霊神に過ぎなかった八幡神が突如、応神天皇と習合することで一躍メジャーに躍り出たその経緯だろうか。やがて八幡神は伊勢神宮に次ぐ神威を身に纏って鎮護国家の神となり、武家政権の誕生や元寇により武神として全国に広まっていく。戦争を経験した著者は、八幡神が戦争イデオロギーに利用された事実にも目を向ける。

◆ 2376円・Ａ５判・280頁・**創風社出版**・愛媛・2016/12刊・ISBN9784860372347

『プリオン　認知症感染の刻』●宇江田一也著



わが国で認知症という病名が使われ始めてからまだ10年余りにしかならない。それなのに今や高齢化社会の問題というにとどまらず、若年性の発症もあって国民の誰もが自分のこととして意識するようになっている。認知症が感染するなどと聞いたことはない。しかし、発症のメカニックを解析し、病原体を人為的に操作したらどんなことが起こるのか。ある町の介護付き有料老人ホームとその地域で、異常型プリオンを媒介にした百万人に一人という希少な致死性の認知症が4人も発症する。感染なのか。それを容認できない医師と研究者は、大学病院に保管されている一つの病原体に行きつく。厳重な管理下に置かれているその施設からの持ち出しは到底不可能と思われた。だが、老人ホームへの潜入協力者の命を犠牲にしてまでもの警察の執拗な捜査で、認知症の母親を交通事故で失った一人の男が浮かび上がる。認知症を取り巻く社会の歪を描く身の竦むような小説である。

◆1944円・四六判・326頁・**書肆アルス**・東京・2016/11刊・ISBN9784907078171

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2016年12月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**faura**　54　大橋　弘一編　A4　80頁　1028円　ナチュラリー［北海道］978-4-503-21019-7　16/12

◆**あおもり草子**　No.241　佐藤　史隆編　A4　48頁　600円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-21014-2　16/12

◆**ゆきのまち通信**　168　企画集団ぷりずむ編　A5　50頁　500円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-21033-3　17/01

◆**SPRIDE**　vol.07　渡辺　直明編　A4　111頁　730円　下野新聞社［栃木］978-4-88286-629-9　17/01

◆**GREEN REPORT**　444　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］978-4-905457-76-3　16/12

◆**子どもと読書**　421号　親子読書地域文庫全国連絡会編　A5　40頁　550円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］978-4-907376-21-5　16/12

◆**かまくら春秋**　No.559　伊藤　玄二郎編　B6　92頁　320円　かまくら春秋社［神奈川］978-4-7740-0701-4　16/11

◆**星座　歌とことば**　No.79　伊藤　玄二郎編　A5　159頁　1080円　かまくら春秋社［神奈川］978-4-7740-0698-7　16/10

◆**地方史研究**　第384号　地方史研究協議会編　A5　126頁　1234円　岩田書院［東京］978-4-87294-984-1　16/12

◆**動物ジャーナル**　94　動物虐待防止会編　A5　48頁　771円　小田原アカデミー［東京］978-4-901085-96-0　16/10

◆**仏事**　No.196　奥村　昇編　A4　116頁　1620円　鎌倉新書［東京］978-4-503-21026-5　17/01

◆**茶道の研究**　No.733　三徳庵編　A5　86頁　540円　三徳庵［東京］978-4-503-21010-4　16/12

◆**茶道の研究**　No.734　三徳庵編　A5　96頁　540円　三徳庵［東京］978-4-503-21032-6　17/01

◆**調査情報**　No.534　岩城　浩幸編　255mm×160mm判　96頁　789円　TBSテレビ［東京］978-4-906908-95-0　17/01

◆**東京かわら版**　No.520　佐藤　友美編　204mm×108mm判　158頁　500円　東京かわら版［東京］978-4-503-21029-6　16/12

◆**俳句四季**　No.473　西井　洋子編　松尾　正光編　B5　160頁　930円　東京四季出版［東京］978-4-503-21021-0　16/12

◆**みんなの図書館**　No.477　図書館問題研究会編　A5　80頁　810円　図書館問題研究会［東京］978-4-503-21017-3　16/12

◆**パズル通信ニコリ**　Vol.157　ニコリ編　247mm×148mm判　119頁　907円　ニコリ［東京］978-4-89072-657-8　16/12

◆**おりがみ**　No.498　日本折紙協会編　A4　51頁　786円　日本折紙協会［東京］978-4-86540-044-1　17/01

◆**海運**　No.1071　日本海運集会所編　A4　84頁　1296円　日本海運集会所［東京］978-4-503-21011-1　16/12

◆**戦争責任研究**　第87号　日本の戦争責任資料センター編　B5　106頁　1021円　日本の戦争責任資料センター［東京］978-4-503-21025-8　16/12

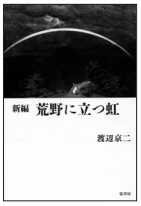
◆**Fuji Airways Guide**　No.632　フジ・インコーポレーテッド編　B5　97頁　380円　フジ・インコーポレーテッド［東京］978-4-503-21028-9

売行良好書

期間：2016年12月15日～2017年1月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『あひる』1404円・書肆侃侃房　(2)『先生が本（おはなし）なんだね』1728円・小澤昔ばなし研究所　(3)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(4)『新編　荒野に立つ虹』2916円・弦書房　(5)『ブックトークのきほん』648円・東京子ども図書館　(6)『成金本』1944円・東京かわら版　(7)『赤ずきんとオオカミのトラウマ・ケア』1944円・アスクヒューマンケア　(8)『三江線写真集』2160円・今井出版　(9)『アウシュヴィッツのコーヒー』2700円・石風社　(10)『台湾史小事典　第三版』3024円・中国書店　(11)『放浪・廻遊民と日本の近代』2376円・弦書房　(12)『一分間の強健法』3240円・壮神社　(13)『国東六郷満山』1944円・木星舎　(14)『あたらしい憲法のはなし』324円・クオリ



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『おすすめ文庫王国２０１７』820円・本の雑誌社　(2)『唐獅子株式会社』2160円・フリースタイル　(3)『東京かわら版　１月号』500円・東京かわら版　(4)『本の雑誌　４０４号』720円・本の雑誌社　(5)『あひる』1404円・書肆侃侃房　(6)『島津四兄弟』2160円・南方新社　(7)『古本屋ツアー・イン・神保町』2160円・本の雑誌社　(8)『信濃中世武家伝』1512円・信濃毎日新聞社　(9)『北海道いい旅研究室１５』710円・海豹舎　(10)『極東セレナーデ』1836円・フリースタイル

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『奥武蔵登山詳細図　武甲山・武川岳・伊豆ヶ岳・丸山　全１３０コース』950円・吉備人出版　(2)『奥多摩登山詳細図（東編）　大岳山・御嶽山・川苔山・棒ノ嶺　全１３０コース』950円・吉備人出版　(3)『民ヲ親ニス　第３号』2160円・不知火書房　(4)『地球惑星科学入門　第２版』3240円・北海道大学出版会　(5)『高尾山・景信山　陣馬山　登山詳細図』823円・吉備人出版　(6)『もうひとつのこの世』2376円・弦書房　(7)『天皇陛下＜８・８ビデオメッセージ＞の真実』1296円・不知火書房　(8)『琉球独立への視座』972円・榕樹書林　(9)『倶舎』2592円・自照社出版　(10)『島津四兄弟』2160円・南方新社　(11)『平成２８年熊本地震　一カ月の記録』1200円・熊本日日新聞社　(12)『マルティン・ルターとその世界』2160円・美巧社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

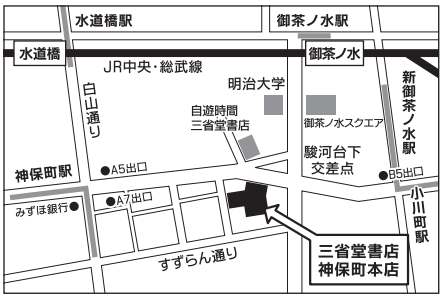
トピックス ―― ★★★

▼秋田の出版社さんがホームページにこんなことを書いていました。「読者の方からある資料のコピーをいただいた。九州・大分県の大分市民図書館や別府市立図書館、宇佐市民図書館に所蔵されている小舎のブックリストである。どの図書館にも10冊以上の小舎本が所蔵されている。なんとも不思議な気分になった。九州でもうちの本が読まれていることは掛け値なしにうれしい。うれしいのだが、本をつくっているとき九州の人も読んでくれている、などという不遜な思いはまったくない。想定外の人たちの目にとまったことへの意外性に戸惑った、といったほうがいいのかもしれない。秋田の片田舎の版元の本が大分県の図書館の片隅で静かに読者を待っている。こんなことを想像するだけで心にポッと灯がともる。少しはこんな仕事をしていることを誇りたい気持ちにもなってくる。落ち込んだ時、自分の作った本が九州でも書架の中で身体を張ってうちの存在を誇示してくれていると思うと、本づくりの大きな励みになる。ちなみにこの大分県のブックリストを送ってくれた読者は札幌在住の方である」。当センターができたのは、このように北の本を九州の読者へ、南の本を北海道の読者へ、ということも目的の一つだったわけですが、改めて40年続けてきた仕事の意味を実感します。しかし、図書館の収容能力にも限界があり、破棄される本も増えているようです。長く保持されることを祈るのみです。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

三省堂書店 BOOKS SANSEIDO
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間 10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。